

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 196 号 —

2018 年 4 月 25 日発行

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

ヨハネの第一の手紙

第一章 九節



新年度に向けスタートダッシュ!!

会 報 五 言

- 一、桜咲き、散り、あつという間の葉桜。自然の営みは正確で人の都合など待たず。
- 一、高ぶりが来れば、恥もまた来る。へりくだる者には知恵がある。
- 一、小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。
- 一、人を変える前にまず自分が変わろう。愛を求める前にまず自分が愛を必要とする誰かを愛そう。
- 一、人が人を愛する。人が人に仕える程難しい事は無い。人は愛するよりも愛される事を、仕えるよりも仕えられることを強く求めるから。

『ともに生きるまち』

日野

日野市長

大坪 冬彦



東京光の家におかれましては、視覚障害と他の障害がある盲重複障害者にきめ細かいサービスを提供くださり、地域福祉に多大なる貢献をしていただいていることに心から感謝申し上げます。

さて、国は平成二五年四月に「障害者総合支援法」を施行し、平成二八年四月には「障害者差別解消法」を施行することで、障害者に対する差別の禁止等を定めました。

これらを踏まえ、市では、平成三〇年度から六か年を対象期間とした「障害者保健福祉ひの六か年プラン」を今年三月に策定し、障害のある方の日常生活や社会生活等を生涯にわたって

支援する仕組みの構築など各種施策を推進しているところです。

このプランでは、「ともに生きるまち 日野」一人ひとりがかけがえのない存在として認め合える地域の実現」を目指すべきまちの姿とし、障害のあるなしによって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域を創っていくことを謳っています。そして、このような地域の実現を目指し、次の三つを基本理念として定めました。

○ お互いを尊重するまち
○ 生涯にわたって支援を行うまち

○ みんなで支えるまち

これは、永きにわたり、視覚障害者のための総合福祉施設として障害者の自立支援に取り組まれてきた東京光の家における「人はどんな障害があっても、必ず新生の希望を持って生きら

れる」という基本理念と一致しているものと考えております。

東京光の家におかれましては、この理念に基づき「光の家新生園」をはじめ、多くの施設運営に取り組まれることで、単に支援するだけではなく、一人ひとりの保有能力を最大限に開発し、すべての人が尊重される共生社会の実現に取り組まれてきていることと思います。

そのような中で、心打たれた事業の一つとして、昨年九月に開催された光バンドの「愛のサウンドフェスティバル・Life」が挙げられます。盲重複障害者の奏でる音楽を通して「勇氣・希望・感動」、そして生きることの意味について、私を含め多くの人たちが考えるきっかけとなったのではないかと思います。また、光バンドの皆さんは海外で講演した実績もあり、二年後に迫った東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、一緒に機運を高めることができましたとも考えております。

一方で、平成二八年に神奈川

県の障害者施設で起こった施設職員による悲惨な事件をきっかけに、障害者に対する差別や虐待が大きな問題となっています。

これら障害者を取り巻く社会問題の解決には、市民一人ひとりが日々の暮らしの中で共生社会の実現に向け、障害のある方とのつながりを持つことが重要であると考えています。そのきっかけとして、平成三〇年四月にオープンした旭が丘地区センターにおいて、東京光の家の皆さんが働き、地域づくりの担い手として、活躍し始めていることがあげられると思います。

障害のある方が地区センターでカフェなどの事業を展開し、市民とともに地域づくりに関わっていくことで、誰もが暮らしやすいまちの実現に繋がっていくと考えています。

これからも、東京光の家、市民、行政の諸力融合で「ともに生きるまち 日野」を実現できますよう、皆様のご理解ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

旭が丘地区センターがリニューアルオープン！

地域における公益的な取り組み

社会福祉法人 東京光の家 常務理事 石渡 健太郎

この度、東京光の家が日野市立旭が丘地区センターの管理業務を始め、中央公園の清掃やテニスコート、グラウンド等の受付業務を運営委託させて頂くことになりました。

旭が丘地区センターのオープニングに向けて一年前から旭が丘公共施設建設協議会が発足し、地域住民の方や日野市の関係部署の方々、そして首都大学

の先生や生徒さん達とどのような地区センターにしていくか議論を重ねて参りました。その中で「障害者が中心となってきた火のような暖かい地域のつながり」というすばらしいコンセプトが出来上がり、これがまさに東京光の家がこれから目指していく地域共生社会の実現とも一致していると感じました。

この地区センターはいろいろ



ひまわり号とオープンした旭が丘地区センター

読み聞かせを聞く園児達



カフエもす♪
やってます

な魅力ある地区センターです。その一つ目は、旭が丘中央公園内にあるという立地の良さだと思います。

東京光の家では公園の向かいで既に「カナン」というレストランを運営させて頂いておりますが公園帰りのお子さんや子育て世代のおかあさん、あるいはシニアの方々といろいろな方々にお越しいただいております。つまりこの旭が丘地区センターは多世代交流の拠点としての機能を果たすことができるのではないかと考えています。

二つ目は、旭が丘中央公園にはテニスコートやグラウンドがあり、そしてすばらしい桜もあって文化・スポーツの拠点としてまた、市民の憩いの場所として既に役割を果たしています。このような場所にある旭が丘地区センターは例えば居場所作りだったり、あるいは学習やいろいろな体験の場として、そして地域コミュニティの場として今後、無限の可能性があるのではないかと思っています。

三つ目は、旭が丘地区センターには光の家常駐スタッフがいますので気軽に公園に来たついでにふらっと立ち寄れることです。

このことによって旭が丘地区センターの利用率は格段に上がることが予想されます。

東京光の家としても今後の取組みとして障害者が公園や地区センターの清掃に取り組む姿や受付業務、あるいはカフェで地域の人達のために働いている姿を通して障害者と地域住民の方々の距離が縮まり障害者に対する理解が深まることによつて健常者も障害者も共に生きる社会、つまり地域共生社会が実現できるのではないかと期待しております。

障害者を始めとしたお子さんや高齢者といった弱い立場の人に優しい街は誰にとっても住み易い街となると思います。

今後、東京光の家が地域に貢献しながら地域作りのお役に立てるよう頑張りたいと思いますのでこれから宜しく願い申し上げます。



光の家神愛園「感謝会」



光の家栄光園「みのりの会」



光の家新生園「納め会」



光の家就労ホーム「結の会」

平成二九年度

締めくくりの会

平成三〇年三月二〇日（火）～二七日（火）

今年度も東京光の家各施設で年度末の恒例行事である「締めくくりの会」が行われました。第一部の式典では石渡常務理事、各施設長、招待者からのご挨拶があり、特に頑張った利用者や、永年勤続の利用者の表彰が行われ、二九年度を振り返りました。第二部の会食では美味

しい食事を頂きながら、演劇や音楽の演奏などが行われました。訓練や仕事の成果が実ったことは、ボランティア、保護者など多くの方々からの支えによるものと結ばれた縁と一年間を無事に納めることができたことに感謝しました。



今年も一年の無病息災をお祈りしました

当日は、多くの地域の皆さんがお集まりになり、おしるこやお餅を食べながら一年の無病息災を祈願しました。

東京光の家もこの地域のお祭りに協力し、テントや机・椅子等をご提供させて頂きました。

「祭り」が行われています。

毎年、東京光の家の目の前にある旭が丘東公園において地域の自治会の方々による「どんど祭り」が行われています。



日野市立旭が丘小学校四〇周年記念 光バンド演奏会 小学生と一緒に♪

平成三〇年三月(四日)(水) 会場：日野市立旭が丘小学校体育館



小学生の皆さんと堂々入場！



小学生全員と一緒に歌いました



演奏後に小学生のお礼を受ける光バンド

日野市立旭が丘小学校は東京光の家と同じ旭が丘にある小学校で、日頃から光の家のイベントや体験学習、また、旭が丘中央公園のたきび祭等で大変お世話になっている小学校です。今回はその旭が丘小学校創立四〇周年の記念に光バンドを招待頂き、演奏会を行いました。

当日は午前中にリハーサルを行い、メンバーは、昼食で小学校の給食を頂き、当日の献立がカレーで大変喜んでいました。

演奏会ではメンバーの入退場には四年生の児童の希望者がヘルパーを行って下さいましたが、希望者が多く、入場と退場に分けて行って頂きました。途中のメンバー紹介では視覚障害者が普段聞いている豊田駅の電車の

発着の効果音をキーボード等で披露したところ、皆さん驚いていました。最後には、全校児童と一緒に『ふるさと』と、旭が丘小学校の第二の校歌と言われている『たき火』を合唱しましたが、児童全員がとても元気よく、そして何よりもコーラスのハモリがとてもきれいに歌えている事に驚きました。アンコールでは、全員が立って手拍子をして歌って大変盛り上がりっていました。メンバーも皆さんから元気を頂き、気持ちよく演奏する事が出来ました。



昨年、東京光の家にお越し頂き眼の病気についてご講義を頂いた、いしわた眼科の医学博士石綿丈嗣先生監修による「目の衛生と私たちの取り組み」と題したパンフレットを作成しております。

このパンフレットは眼の病気や視覚障害者の支援方法等に加え光の家の取り組みが日野市民の皆さんにご理解頂けるような内容となっておりますので今後、視覚障害者の啓発活動として配布していく予定です。



平成三〇年度

新任職員紹介



今年も東京光の家に三名の新任職員が加まりました。

学生時代に学んだことや、体験してきたことを生かして、一日でも早く光の家のみなさんのお役に立てるよう精一杯がんばります！



光の家新生園 行動訓練係



長岡 杏佳
洗足学園音楽大学卒

光の家新生園 作業訓練係



加藤 真央
立正大学卒

総務部 庶務係



木村 文香
関西学院大学卒

第五回 点字教室を開催

平成三〇年三月二日(土)
会場：東京光の家 研修室

今年も近隣の日野五小や日野

六小、旭が丘小からの小学生や保護者を中心に一八名の参加があり、参加者数としては過去最大で関心の高さを感じました。みなさん点字で書かれた用紙にとらめっこをして、簡単な単語を読むことに挑戦してもらいました。みなさん熱心に取り組んでいて、楽しく点字を学ぶことができたという感想が多く聞かれてよかったです。



そっとなぞって指で読もう！

光の家鍼灸

マッサージホーム

真心をこめた施術で、皆さまの健康に奉仕させていただきます。

受付時間 (電話予約制)
午前九時～午後七時半

定休日 毎週水曜日

電話

〇四二(五八二)七二〇九

料金

はり 四、〇〇〇円
マッサージ 二、五〇〇円

三〇分 三、八〇〇円

七〇分 五、〇〇〇円

一〇〇分



※ 毎月1日はサービスデー、500円割引

平成三〇年度 入所式

平成三〇年四月二日（月） 光の家就労ホーム
平成三〇年四月六日（金） 光の家新生園

平成三〇年度が始まり、今年度も光の家就労ホーム、光の家新生園それぞれで、入所式が行われました。

光の家就労ホームでは二名の利用者を迎えました。お二人共、これからの新しい門出に緊張しつつも、先輩たちから笑顔で歓迎してもらい、安心した様子でした。

光の家新生園でも二名の仲間を迎えました。お二人共しっかりと自己紹介をした後、先輩方から励ましの言葉と、聖歌隊有志による心のこもった歌声で、温かく迎え入れてもらいました。両日とも、桜が満開で見頃となり、新たな生活を応援してくれているようでした。



光の家就労ホーム入所式（2名）



光の家新生園入所式（2名）



新成人6名の門出を祝って

新成人を祝う会

平成三〇年一月八日（月）
会場：東京光の家 講堂

今年は光の家新生園から三名、光の家就労ホームから三名の「新成人を祝う会」が催されました。新成人の六名は、それぞれの抱負を立派に語ることができ、式に参加した光の家新生園の先輩から祝福を受け、大人の仲間入りを果たしました。

寄付者名簿

平成二九年二月二六日
三〇年四月五日

亀山 巳さ様

じゃがいも 一〇kg
南瓜二kg 長芋五kg

安積 和男様

広島菜漬 二kg

山崎 群治様

みかん 二〇kg

新里 美江様

レモン 一〇kg

新里 正様

マダロ 一五kg

アース製薬株式会社 取締役会長
大塚達也様

アース商品詰め合わせ

米倉 清治様 米 五五kg

依田 朝子様 いちご 三七パック

MITホールディングス株式会社
代表取締役社長 鈴木 浩様

日本盲社会福祉施設協議会様を通じて
お財布型ポータブル紙幣識別機

「言う吉くん Walker」 四台

松浦 明子様 静岡茶葉 一kg

和紙・色紙・アクリル等 二四〇玉

仲間 君代様 スパム缶詰 四八缶

松橋 敬様 キャベツ 二二kg

白菜 二kg、山ごぼう 四kg

じゃがいも 一〇kg

小園江 康様 干し芋 一〇kg

日野市立あさひがわこ児童館 館長

永関 友美様

盲人卓球用ラケット 四本

坂本 武様 夏みかん 一一個

いよかん 四二個

小西 妙子様 バナナ 二八kg

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

第二回 手さぐりの作品展

平成三〇年二月二十七日(火)～三月四日(日)
会場…日野市立とよだ市民ギャラリー

二回目となる手さぐりの作品展が「森」をテーマに開催されました。

施設の旅行で訪れた「那須平

成の森」での体験を活かして作られた作品を展示しました。織り機で織ったクマの毛皮、木工

で作った木の床、籐細工で作られた天井までそびえる樹、陶芸では大きな鳥などを展示しました。

一年間の訓練のまとめとしての作品展に今年度も多くの方々にお越し頂き、お礼申し上げます。



籐細工で作った大木に驚きました！



陶芸作品の滝が奏でる音にうっとり～



鳥ってこんな形なんだ？！



とても素敵な森ができました

ゝあ と が きゝ

若葉の萌える頃となり、心若やぐ季節となりました。

今回の外部寄稿は日野市の大坪市長にご寄稿頂き、諸力融合で実現する「ともに生きるまち日野」というプランで一人ひとりがかけがない存在として認め合える地域の実現に向けて推進されているということが良くわかりました。

また、大坪市長から東京光の家は地域共生社会という理念が一致しているという地域福祉に貢献しているというお言葉を頂き深く感謝申し上げます。

これからも東京光の家は光バンドの音楽活動や旭が丘地区センターの運営管理業務等を通して地域住民との交流を図りながら「ともに生きるまち日野」の実現に向けて力を注いで参りたいと存じますので引き続き、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

(常務理事 石渡 健太郎)

発

行 〒一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一七ー一七
社会福祉法人 東京光の家

電話 〇四二(五八二)二三四〇

FAX 〇四二(五八二)九五六八